

「第3回日中和紙ちぎり絵展—広島市・重慶市友好都市締結30周年記念」

開会の辞

(2016年10月26日, 広島市)

四川師範大学 楊穎育

尊敬する岩井梅子理事長、ご来場の皆様方

こんにちは！

まず、四川師範大学を代表し、本展覧会の主催であるNPO法人虹橋の会、及び和紙絵ちぎり絵展 開催にあたって、ご協力いただいた各界の皆様方に心からの感謝を申し上げます。

中国と日本は一衣帯水の隣人であり友人です。日中の民間文化には深い関係があり、両国民が伝承してきた文化や審美観には共通するものがあります。時代は進み、日本の「和紙」はユネスコの世界無形文化遺産に登録されました。和紙絵は現代芸術においても新たな魅力を発揮し、世界の注目を集めています。今や、日本の和紙絵は両国の民間文化交流を促進し、友好を深める重要な懸け橋、絆になりつつあると言えるでしょう。

2015年11月2日、虹橋の会の岩井梅子理事長ご一行の4名がわが校を訪問され、和紙ちぎり絵講座を開催されました。四川師範大学側では、国際教育学院、幼稚園、附属実験小学校、美術学院、デジタルメディア学院など5つの附属機関から60余名の教員と学生（留学生を含む）を集め、ちぎり絵を学びながら交流いたしました。その反響は大変大きなものでした。日本人の先生から直接ちぎり絵の作り方をご指導いただき、参加者たちは作品を眺めてその芸術的な魅力や日本文化に惹きつけられました。

それ以来、和紙ちぎり絵は四川の学生達と良縁を結びました。教員と学生達が学内で大々的に宣伝した結果、益々多くの人々が絵の学習と創作活動に参加するようになりました。本日、四川師範大学からは15名の学生と3名の教員による18作品が、他の地域の作品と一緒に展示されており、私はそれを大変喜ばしい気持ちで眺めております。中国には、「星星之火, 可以燎原 (小さな火花でも野原を焼き尽くすことができる = 最初は弱小であってもいずれは強大なものに発展する可能性がある)」ということわざがあります。我々は、虹橋の会と手を携えながら、日中における民間レベルの友好関係を深め、文化交流事業を推進し続けたいと思います。

最後に、「第3回日中和紙ちぎり絵展—広島市・重慶市友好都市締結30周年記念」の成功を心からお祈り申し上げます。

ありがとうございました！